

令和 6 年度改善事例集

ステークホルダーからのご意見、ご要望等への対応による改善事例

佐賀大学では、よりよい大学運営や教育内容・方法の改善等に役立てるために、本学のステークホルダー（学生、卒業（修了）生、新入生、ご家族、教職員、学外の各委員及び関係者、地元企業の皆様、地域の皆様など）からさまざまなご意見・ご要望等をいただきました。それらへの対応状況の中から具体的な改善事例をピックアップして公開いたします。
今後とも、地域とともに発展しつづける大学であるために、いただいたご意見等に対し改善に向けて努力してまいります。

【令和6年度意見聴取（令和6年度 意見対応） 令和7年3月31日現在】

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応	具体的な改善事例（R7.3.31）	改善年度
7	佐賀県・佐賀大学連携調整会議等 佐賀県庁	T S U N A G I プロジェクト	令和元年より毎年実施している佐賀県・佐賀大学連携調整会議において、本学の取組等の情報共有を行ってきた。情報共有した本学の取組の成果が認められ、より強力に佐賀県内の地域課題の解決や県内の産業・学術の振興を図ることになった。	・佐賀県内の地域課題の解決や県内の産業・学術の振興のため、令和4年度より佐賀県による研究支援事業「T S U N A G I プロジェクト」がスタートした。 ・「T S U N A G I プロジェクト」が継続的に実施されるために、佐賀県・佐賀大学連携調整会議等で本学の取組について情報共有を続けていく。	・令和6年度は令和6年9月5日に第9回、令和7年2月5日に第10回の佐賀県・佐賀大学連携調整会議を実施しました。 ・令和6年度は、継続事業が19件、新規事業が6件の計25件が採択され、そのうち2件が佐賀県からの提案による受託事業で本学において研究を進めています。 【県提案による2件の内訳】 ・農学部木村圭准教授による「色落ちノリの色調向上試験」 ・総合分析実験センター兒玉准教授による「陶磁器製造業から排出される廃石膏の農業分野での有効利用に関する研究」	R6
9	医学部学生・教職員	学生の国際学会旅費	〇ご意見、要望 学生が国際学会に参加し、発表をする場合の旅費等支援をして欲しい。	・「佐賀大学医学部学術国際交流助成事業実施要項」を見直し、支援を充実します。	・いただいた意見を精査し、「佐賀大学医学部学術国際交流助成事業実施要項」を改正し、令和7年4月1日から実施することで、下記により改善します。 ・国際学会発表の支援は、大学院生のみであったが、学部学生まで支援を拡大します。 ・学部学生の留学に対しても、慣例で10万円の助成を行っていたが、20万円を上限とすることを可能とします。	R6
11	患者様及びその関係者様など	附属病院 ご意見箱	〇ご意見・ご要望 ・自転車マナーを改善してほしい。	・患者様及びその関係者様など外部等の視点から見た病院運営の在り方及び病院サービス向上について活用する。	・令和6年5月投稿他：学生の構内自転車マナーが悪いので改善してほしい。 → 自転車マナーについて再三学生課にて指導をしてきましたが、改善されないため、構内通行方法を見直し、患者様の通行が多い箇所について、自転車を押して歩くこととし、その旨の標識を設置しました。	R6
12	海洋エネルギー研究所 一般見学者、企業、自治体、研究者など	見学者 アンケート (回答数：271名)	〇ご意見・ご要望 ・海洋エネルギーや施設について、SNS等での広報活動に力を入れて欲しい。	・海洋エネルギーや施設について広報活動に力を入れていきます。	・佐賀県の進める佐賀エナジーツーリズムの参加施設として、教育旅行や研修旅行を広く受け入れています。 佐賀エナジーツーリズムホームページ https://saga-et.com/ocean/ (一社) エナジーツーリズム推進協議会から依頼がありました、佐賀エナジーツーリズム事業に伴う一般企業（三菱UFJ銀行）による視察（令和7年1月24日、令和7年3月6日）を受け入れています。	R6

令和 6 年度改善事例集

【令和5年度意見聴取（令和6年度 意見対応） 令和7年3月31日現在】

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応	具体的な改善事例（R7.3.31）	改善年度
3①	佐賀大学教職員アンケート回答者	広報室アンケート（151名） 令和5年9月20日～ 令和5年9月30日	○制作して欲しい広報用グッズ ・横断幕やのぼり、テーブルクロスなどのイベント用グッズ ・カッチーくんのぬいぐるみ ・オリジナル文房具、菓子類（土産用） ○制作して欲しいデジタル素材 ・カッチーくんの画像素材 ・オリジナル名刺、スライド、背景素材 ・LINEスタンプの続編 ・学内の風景・施設・校舎の写真	・予算の範囲内でリクエストの多いグッズから制作いたします。 ・学生広報スタッフと連携しながら、リクエストの多い素材から随時更新いたします。LINEスタンプは第3弾を制作しました。今後も続編を制作予定です。 ・グッズの販売に関して、現在大学生協様とライセンス料をお支払いいただく方向で詳細を詰めています。	・カッチーくんグッズとしてリクエストのあった、横断幕、のぼり、及びテーブルクロスは、グッズとして貸出を開始しました。 ・デジタル素材としては、オリジナルの名刺テンプレートを作成し、ホームページからダウンロードできるようにしました。 ・オリジナルグッズとしては、学生広報スタッフがデザインしたカッチーくんのマグカップを新たに制作・販売しました。	R6
3②	佐賀大学教職員アンケート回答者	広報室アンケート（151名） 令和5年9月20日～ 令和5年9月30日	○効果的にPRできる企画やアイデア ・分かりやすい学内案内表示の制作	・目的の場所までスムーズに到達するためのナビゲーション（道案内）アプリを企画・制作しました。	・分かりやすい学内案内表示については、専用アプリ「カッチーNAVI」を整備し、令和6年度には鍋島キャンパスも実装しました。	R6
5①	ホームカミングデー参加者（佐賀大学卒業生、名誉教授）アンケート回答者	第12回ホームカミングデー 令和5年10月28日 アンケート（64名）	・現役学生も参加できるような企画が必要では。	・現役学生も参加できる内容のものを企画します。	・第13回ホームカミングデーでは、大学発ベンチャー講演会として、在学生による起業した企業活動の取り組みについて講演していただきました。 参加者アンケートでは、「学生時代に起業した若者たちの話を聞いて、嬉しく思いました。私も元気をもらいました。」「起業する学生に、基金を集めて支援することが必要と感じた。」などの意見をいただき好評を得ました。	R6
5②	ホームカミングデー参加者（佐賀大学卒業生、名誉教授）アンケート回答者	第12回ホームカミングデー 令和5年10月28日 アンケート（64名）	・校友会にはグラウンドを含むスポーツ施設の整備支援。スポーツ施設（グラウンド）の整備をお願いしたい。	・校友会の事業は、大きく学生支援事業と校友間交流事業がありますが、新たにスポーツ施設の整備支援の経費を確保するのは厳しい状況にあります。	・校友会の事業予算のなかから、スポーツ施設の整備について支援経費を確保できませんでしたが、今年度は施設整備事業の経費により、かねてより改修の要望がありました本庄地区体育館の大規模改修を実施しました。これからもできるかぎり財源の多元化・確保によりスポーツ施設を整備していきます。	R6
7	卒業（修了）予定者	卒業（修了）予定者を対象とした共通アンケート	・佐賀大学に給水スポットを設置し、マイボトル利用を増やしたい。	・佐賀大学に給水スポットを設置します。	・令和5年12月に教養教育1号館1階学生ホールに、令和6年9月には経済学部1号館学生談話室にウォーターサーバーを設置しました。現在多くの学生・教職員が利用しています。	R6
10	患者様及びその関係者様など	附属病院 患者満足度調査	・待ち時間が長いので対策をしてほしい。 ・駐車場不足の解消	・アンケートでのご意見については、改善に向けた対応策を検討・実施していきます。	・患者様の診察までの待ち時間対策として、外来呼出しシステムSMSサービスにより待ち時間の可視化するとともに利用促進を行いました。 また、計算窓口の混雑緩和のため、今年度より「指定難病・小児慢性」の更新時期に特設窓口を開設しました。 ・立体駐車場が完成したことにより、駐車場不足が解消しました。	R6

令和6年度改善事例集

【令和5年度意見聴取（令和6年度 意見対応） 令和7年3月31日現在】

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応	具体的な改善事例（R7.3.31）	改善年度
13	高校生	総合分析実験センターアンケート （令和5年8月5～6日、15名）	（高校生による回答） ■今後参加したい内容 ①模擬実験、②大学の研究室見学、③施設見学、④簡単なプログラミング実習、⑤芸術実技、⑥トピック・話題に関する講演 ■意見、感想 ・学校では使わない機械を使うことが出来た ・普段体験できない、難しい装置を使って、長い時間を費やして研究でき、やりがいを感じた ・知識としては知っていた電気泳動やPCR法を、実際に自分の手でやってみることで、その仕組みをより理解することができた ■企画を知った要因 ①各学校に掲示されたポスターやチラシ ②先生からの勧め	・実際に手を動かして実験したり、高校まででは使わない（学校に無い）研究機器を使うことに高い興味があるようなので、引き続き、次年度以降の実習内容に取り入れていきたい。 ・本企画をポスター、チラシといった配布物で知ることが多いようなので、次年度以降も、引き続きポスター等の作成や送付を行いたい。	・令和6年7月27日に「夏だ！科学だ！研究だ！サイエンスワークショップ」を高校生対象に開催しました。10名定員のところ9名の参加があり、実際の研究現場で使われている研究設備（走査電子顕微鏡、細胞自動解析装置）を高校生が操作して、研究の一端を体験していただいた。	R6
14	一般市民、研究者等 （オープンラボ参加者）	海洋エネルギー研究所アンケート （令和5年7月22日、66名）	・参加目的の動向 「エネルギーや環境問題に関する学習」が多く、「実物が見学できたことは大変有意義な経験となった」「常に質問できる環境がよかった」「仕組みがよくわかった」などの意見が見られた。 ・来場のきっかけ 「ポスター」「HP」が多く、「テレビ」からの来場が少なかった。	アンケートの要望を今後の企画、イベントの方法に活かしている。具体的には、展示方法、説明方法、子供が楽しめる参加型イベント等。 また、今回より伊万里市の協力で市内の小学生全員にチラシの配布を行うことが出来た。来年度も伊万里市と協力して周知活動を行う予定。	・アンケートの要望を取り入れ、2024年度開催のオープンラボは前回とは催しの開催場所や待ち時間の短縮などに努め、子どもが楽しめるよう改善し概ね好評であった。 ・絵はがきコンテストに参加していただいた小・中学生には今年度は新たに参加証を進呈したが大変喜ばれた。 ・伊万里市役所と協力し、伊万里市内の校長会で絵はがきコンテストの告知案内を行ったことで、学校単位でのコンテストの参加につながった。 ・伊万里市役所の協力で、伊万里市内の各学校にチラシを配布	R6
18	教職員 企業	施設マネジメント委員会 複数の企業からの要望等	・従来のネーミングライツよりバリエーションを増やすことで様々な規模の企業・団体様に対して学生の学習・生活環境の向上への面での多様な財源の増加を図れないか。 ・企業アピールや佐賀大学生のリクルーティングのためにネーミングライツを行いたい。	・建物、室及び外部空間のネーミングライツ事業を創設し、その事業パートナーを募集します。	・令和6年4月からネーミングライツ事業（建物単位：10施設、室単位：166室、外部空間：12施設）のパートナー募集を開始しました。 ・令和6年8月に3社のパートナー企業との契約を皮切りに、令和6年度内に10社（2年契約1社、3年契約3社、4年契約1社、5年契約5社）との事業契約を締結し、令和7年度においては年間約520万円の財源を得ることとなりました。	R6

令和6年度改善事例集

【令和4年度意見聴取（令和5～6年度 意見対応） 令和7年3月31日現在】

整理番号	ご意見をいただいた ステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応	具体的な改善事例（R7.3.31）	改善 年度
4③	ホームカミングデー参加者 （佐賀大学卒業生、名誉教授）	第11回ホームカミングデー	自由な環境と雰囲気のもとで、学生や若手教員の能力が十分に伸びるように長期的計画に従って施策を進めてほしい。特に、学生や若手教員の海外派遣を積極的に進め、海外の見識が深まるよう尽力していただきたい。	・校友会で実施している学生活動支援事業の海外派遣奨励金及び国際交流奨励金を令和5年度は20万円増額した。 ・また、校友間交流支援事業の海外版ホームカミングデー支援経費を20万円増額し、タイのバンコクで開催した。 ・以上のように海外派遣等の経費を充実して実施した。	・令和6年度は、校友間交流支援事業の海外版ホームカミングデーの支援経費を80万円（対前年20万円増額）として、2024年12月15日ベトナムのハノイで開催しました。 大島理事（企画・将来計画担当）をはじめ、在ベトナム日本国大使館や佐賀県や県内企業等の来賓の方々、大学間交流協定校の教職員、そして元留学生23名を含む、総勢38名が参加しました。 今後、ベトナムの大学との留学生や研究者の交流促進が期待されます。	R6
5	奨学金受給学生	奨学金受給者との懇談会	基本教養科目の選択肢が少なく、更に抽選されるので、希望通りに受講できない。	令和5年度は新たに「データサイエンス Basic」等、オンデマンドで受講できる科目を複数科目追加し、受講できる科目を増やしました。	・令和6年度は新たに「STEAM学習基礎」を新規開講したほか、放送大学の教育協力型単位互換を開始し、受講できる科目を増やしました。 ・放送大学の導入科目のうち、56科目が受講可能で、1人につき2科目まで受講できます。 受講実績は以下になります。 受講者数 科目数 R6前期：10名 16 R6後期： 5名 7 合計 15名 23	R6
8①	附属図書館利用者アンケート（490名）	附属図書館本館利用者アンケート	・気兼ねなく声を出してグループワークなどができる学習スペースを作ってほしい。 ・図書等の資料を充実させてほしい。	・令和4年10月3日、本館4階旧事務室を改修して、新たにグループ学習やディスカッションができる「多目的学習スペース」の整備を行いました。 多目的学習スペースの開設以来1年間（令和4年10月～5年9月）で、延べ24,337人の入室があり、グループ学習やディスカッションとして利用されています。 ・シラバス図書については、令和5年度当初に約1,400冊の整備、充実を図りました。 また、教員推薦図書は112冊、学生WEB選書ツアーでは72冊整備しました。	・多目的学習スペースは、グループ学習やディスカッションのスペースとして多くの方に利用されており、また授業等にも活用されています。 ・シラバス図書約270冊、継続図書301冊、学科推薦図書340冊、教員推薦図書55冊、図書館推薦図書1,111冊、の整備、充実を図りました。 また、5年ぶりに開催した対面の学生選書ツアー（福岡市）で179冊、学生リクエストで56冊を整備しました。 さらに、2月より電子ブック482冊を整備しました。引き続き学生の声に寄り添った選書を行い充実を図ります。	R6
8②	附属図書館医学分館利用者アンケート（109名）	附属図書館医学分館利用者アンケート	・図書館内に配置しているデジタルサイネージの活用について ・図書の配置が高い	・サイネージを設置してから今まで、図書館関連情報以外を掲示したことはないが、現在進行形で、教職員の方から、セミナー案内のサイネージ利用の相談を受けています。図書館の情報に関しては、以前より頻繁に新しい情報を掲示しています。 ・図書の書架について、利用者のいない休館日等を利用し、配架している図書の高さが1段低くなるように調整を行いました。	・令和6年度はデジタルサイネージに図書館関連情報以外として地域医療科学教育研究センターからの依頼で臨床実習コーディネーターの案内を追加しました。 また、4月に行った学生や教職員向けの図書館オリエンテーションの際にデジタルサイネージに案内を掲載できることを紹介しています。 ・図書の書架は引き続き一番上の段に配架しないようにしています。	R6